特定医療法人 新生病院　中期ビジョン ～　90年の歩みへの感謝と100年に向けた新たな歩みだし　～

1932年　カナダ聖公会により新生療養所として設立
1968年　新生療養所を新生病院へ改称
1985年　宗教法人から医療法人に変更
1993年　健康管理センター「ヘルシーベル」竣工
1997年　緩和ケア病棟開設
2000年　介護事業所開設

認　定　証
Certificate of Accreditation

認定第JC418-2号
Accreditation Number

事業体制区分2
(voluntary)
Assessment system division 2

特定医療法人　新生病院　殿
New Life Hospital

貴病院が日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCQHC accreditation standards.

認定期間：2010年2月21日～2015年2月20日
February 21,2010 through 20,2015

発行日：2010年3月15日
Issue Date: January 15,2010

財団法人 日本医療機能評価機構　理事長　井原　哲夫
Japan Council for Quality Health Care　Chairman of the Board　Tetsuo Ihara

2005年　(財)日本医療機能評価機構　認定取得
2006年　改築棟竣工
　　回復期リハビリテーション病棟開設
　　訪問看護ステーションおぶせ開所
2008年　株式会社メイプル設立
2011年　ミス・パウル保育園開設
2014年　地域包括ケア病床開設
2015年　電子カルテシステム導入
　　NPO法人パウル会設立
　　NPO法人ワンダイム設立

1932年　　*2022年 (90周年)*　　*2025年*

2023/03/16版

主要施策	分類	中期ビジョン
1. 患者ニーズの多様化・個別化への対応	提供 サービス	■ 高齢化や家族構成の変化によって患者ニーズが多様化・個別化していることを踏まえ、全職員が協働して、それぞれの患者さんにとって最適で包括的な支援を行う。 ■ 身体的なニーズにとどまらず、患者さんの環境や社会的ニーズを含めた生活全体を支援する。
2. 質の高い地域密着型医療の提供	提供 サービス	■ 専門領域における外来・病棟看護体制を一体化した看護提供とフォローアップを行う。 ■ 患者満足度(CS)、職員満足度(ES)、経営の調和に根ざした医療の質向上を推進する。 ■ 高齢者を中心とした多様なニーズへ対応するため、在宅医療と連携した地域密着型医療を推進する。 ■ シームレスで質の高い緩和ケア、リハビリテーションをさらに発展させる。 ■ 認知症ケアに強い病院づくりを推進し、認知症と共に生きる患者さんと家族の地域での生活を支援する。 ■ 摂食嚥下および栄養に関する取り組みを推進し、食べる愉しみの創出と栄養状態の維持、改善に貢献する。
3. 有効的且つ効率的な病棟運営	提供 サービス	■ 医療ニーズの変化や地域医療構想に掲げられた機能分化にあわせて、常に最適な病床構成を保ち、地域にとって有効且つ効率的な病棟運営を行う。 ■ 各病棟の年間稼働実績に基づいて、病床機能の再配分や統合、人員配置の適正化を行う。 ■ 効率的な病棟運営を実現するために、多職種協働による病棟運営を推進する。
4. 健康管理センターと外来機能の段階的集約化	提供 サービス	■ 健康管理センターと外来機能を段階的に集約し、省力化、効率化を図る。 ■ 既存の専門外来とともに、検査受入等、地域の診療所の補完機能を担う。 ■ 地域の診療所や介護事業所と連携しながら、紹介された入院患者(サブアキュート)を受け入れる入院受入窓口としての機能の一翼を担う。 ■ 健診から外来への紹介導線を明確にし、適切なフォロー、治療に繋げる。
5. 在宅医療の拡大と質の向上	提供 サービス	■ 自宅や施設での療養を希望する地域住民が、質の高い医療やケアが受けられるよう、連携と医療の質向上を図る。 ■ 小布施町、須坂市、高山村、中野市、山ノ内町の潜在的な在宅医療(訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等)需要を喚起するとともに訪問エリアを拡大する。 ■ 専門職(検査技師、薬剤師、栄養士等)の地域展開を推進する。
6. 地域包括ケアの推進	提供 サービス	■ 新生病院グループとしての在宅医療の地域展開とあわせて近医の在宅医療参入支援、緊急時のバックアップ、地域支援事業等への参画を通じて地域全体の在宅医療の発展に貢献する。 ■ 入院目的に応じて最適な入院導線を確立し、地域のバックベッドとしての機能向上を図る。 ■ 予防事業を通して、地域の方々の健康増進と介護(フレイル)予防に貢献する。
7. トータルベッドコントロールの実現 クライアントセンター構想(仮)	提供 サービス	■ 新生病院グループ全体の医療介護資源を最大限に活用し、より多くの患者さん、利用者さんが、希望する場所で必要な医療や看護、介護を受けられるよう、一体的な情報管理体制を構築する。
8. 人財確保および教育体制強化	人財	■ 新生病院グループが推進する在宅医療との連携や地域包括ケアに共感し、実践できる人財を積極的に採用する。 ■ 人財確保と育成を推進するため、競争力のある従業員価値提案(報酬制度、教育環境、休暇制度、福利厚生、子育て支援等)を行う。 ■ 専門職のサブスペシャリティの取得や職域の拡大を支援する。 ■ 全職員が専門性を発揮し、キャリア形成できる教育的な風土づくりを推進する。
9.患者満足度(CS)、職員満足度(ES) 経営が調和した組織づくり	組織 システム	■ 患者満足度(CS)、職員満足度(ES)、経営が調和した組織づくりを推進する。 ■ 創設者の思いや設立理念を共有し、将来を見据えたパーパス(存在意義)を再定義する。 ■ タスクシフト、外部委託、デジタル化等により業務効率化と医療の質向上を推進する。 ■ 全職員が健康で働きがいをもって活躍できる職場環境を推進する。
10. 財務健全化	財務	■ 各施策の実現のために健全な財務基盤を構築する。 ■ 病院改築およびCOVID-19院内感染に伴う長期借入金の確実な返済を進め、内部留保の確保および退職金債務解消に向けて足固めを行う。 ■ 業務効率化や医療の質向上に資する設備投資を実施する。 ■ 職員一人ひとりが経営に参画できるよう情報開示を推進する。

提供サービスマネジメント
地域密着型の病院としての、全人的で安全な、効率的で質の高い医療・ケアの提供。外来・在宅・入院の連携によるシームレスな医療、ケア、リハビリの実践。待つだけの医療から寄り添う医療へ

予防・健診	外来	入院	在宅
健康管理センターと外来機能の段階的集約（省力化、効率化およびリハビリ、売店等への誘導の検討）		155床の有効的且つ効率的な運用	新生病院グループとしての地域密着型医療の推進
健康管理センター・外来機能にあわせた人員体制の見直し		地域ニーズに応じた病床機能転換	在宅医療（在宅支援課）拠点の確保 （在宅支援課本部センター（仮）の設立）
入口から健管への動線の工夫	総合診療外来、ウォークイン、発熱外来、紹介入院受入体制構築	目的に応じた入院導線の最適化	訪問エリアの拡大・潜在的ニーズの開拓
受診者の継続的な健康管理	内科・総合診療科の対象疾患の明確化および院内外への周知	ポストアキュート機能の維持・発展	パウル会との協業体制の強化
受診者ニーズにあわせた検査資源の発展的有効活用	地域の診療所との役割分担の明確化	地域のバックベッド（社会的入院、サブアキュート、定期検査等）としての機能強化	往診体制の充実
		生活支援リハビリ（運動機能・生活機能・自信の回復、維持、向上）	訪問診療参入支援（今後）
上部消化管内視鏡検査体制の再構築	専門領域（緩和ケア、脳外科、認知症、整形外科）における外来・病棟看護体制一体化による専門的看護の提供、フォローアップ強化		専門職（薬剤師、技師、栄養士、衛生士等）の更なる地域展開

健診（予防）・外来・地域包括ケア病棟・在宅診療のシームレスな連携強化

	非がんを含めた緩和ケア・症状緩和の推進 安楽で穏やかな時間の提供
認知症予防に係る取り組み推進	認知症ケア（院内デイケア等）の強化 認知症と共に生きることの支援
	摂食嚥下および栄養に関する取り組み推進 食べる愉しみ創出と栄養改善の支援
おぶせスタディへの積極的関わり	
介護・フレイル・認知症予防の取り組み強化	地域リハビリテーションの推進（地域リハビリ本部センター（仮）の設立）
ロコモ健診の開始と連携	経済的・社会的困窮者への対応力強化

カルテ記載・質の向上

医療施設・介護施設・居宅介護支援事業所等との連携強化による患者・連携先満足度向上

須高地域における新生病院グループの役割（信州医療センター、轟病院ほか診療所との役割分担）の明確化、総合力・魅力の発信

新生病院グループにおける一体的患者、利用者管理（トータルベッドコントロール）の推進

有機的協働の推進

	必要な人財確保	教育・育成		相互信頼・相互理解の推進	働き方改革	処遇（手続き・分配の公平性）改善
人財マネジメント	在宅療養支援担当医師採用強化	事業遂行に必要な知識・技術習得補助	e-ﾗｰﾆﾝｸﾞの活用（感染・安全・褥瘡）	院内留学、職場体験の実施	同一労働・同一賃金への対応	評価制度のさらなる精度向上
	地域包括ケア担当医師採用強化	専門医・認定看護師・認定療法士育成	他施設交流による医療ﾚﾍﾞﾙ維持向上	多職種症例検討会の定期開催	有給休暇連続5日以上取得推進	給与改定に向けた具体案の検討
	地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ担当医師採用強化	緩和ｹｱﾁｰﾑによる研修会・勉強会開催	院内学会開催、学会・誌上発表促進	人財の流動化（部署間異動）の促進	時間外労働の短縮	管理職の人事考課の試験的運用
	看護師・介護士・療法士採用強化	認知症ｹｱﾁｰﾑ・NST・SST設立準備	教育機関、大学、圏域中核病院との連携強化	福利厚生の充実	多様な働き方の検討	職務要件書整備
	情報発信・ブランディング強化	管理職研修の充実 （接遇・ﾊﾗｽﾒﾝﾄ・病院経営）		グループ間交流の推進	ライフワークバランスの尊重	

組織・システムマネジメント	職員満足度調査を踏まえた改善	各専門職にとっての働きがい創出	リスクマネジメント（BCP等）の推進	院内情報共有の促進	ICTによる業務効率化の推進	電子カルテ機能の拡充
	理念共有	教育的風土醸成	健康経営の推進	タスクシフトの促進	WEB環境のさらなる充実	既存資源の有効活用

財務マネジメント	安全な医療提供のための設備投資	長期借入金返済	財務健全化	中期資金計画立案	改築、処遇改善に向けてた内部留保	退職金債務の解消